

2011年度(平成24年3月期)
第2四半期連結業績概要

大日本住友製薬株式会社
2011年10月31日

2011年度第2四半期 決算の概要

経営成績(前年同期比較)

金額単位:億円

	10年度2Q	11年度2Q	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	1,886	1,780	△ 105	△ 5.6 %
売上原価	578	498	△ 81	△ 13.9 %
売上総利益	1,307	1,283	△ 25	△ 1.9 %
販売費及び 一般管理費	1,158	1,135	△ 23	△ 2.0 %
販売費・一般管理費	830	862	32	3.9 %
研究開発費	328	273	△ 55	△ 16.8 %
営業利益	149	147	△ 2	△ 1.4 %
経常利益	144	145	1	0.7 %
特別利益	—	12	12	—
四半期純利益	87	96	9	10.6 %

(注)1.記載金額は億円未満を四捨五入しております。

2.売上原価には返品調整引当金繰入(戻入)額を含めて記載しております。

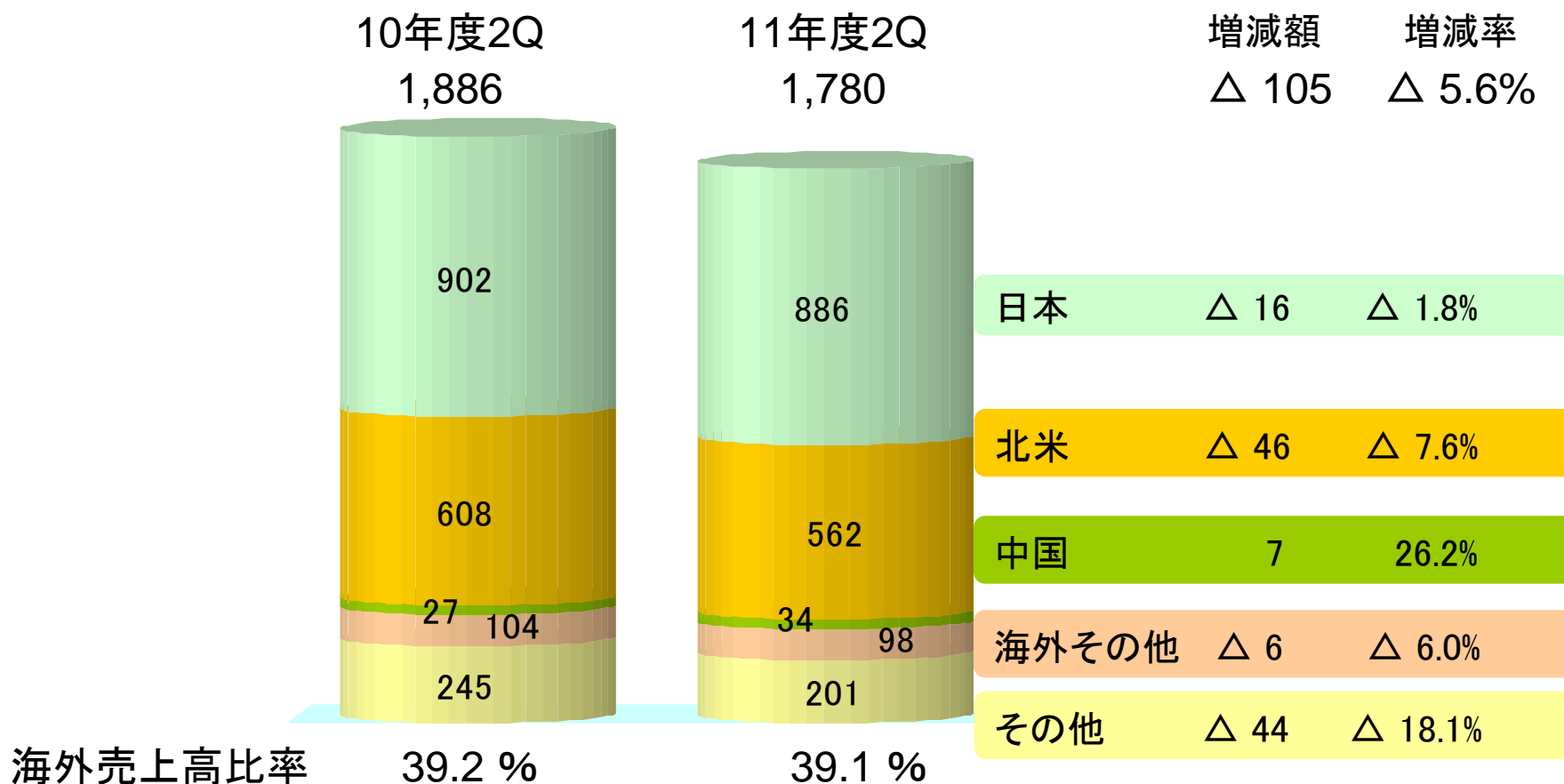
経営成績(5/11公表予想との比較)

金額単位:億円

	11年度2Q予想 (5/11公表)	11年度2Q 実績	対予想比	
			差額	増減率
売上高	1,797	1,780	△ 17	△ 0.9 %
売上原価	501	498	△ 3	△ 0.7 %
売上総利益	1,296	1,283	△ 13	△ 1.0 %
販売費及び 一般管理費	1,207	1,135	△ 72	△ 5.9 %
販売費・一般管理費	901	862	△ 39	△ 4.3 %
研究開発費	306	273	△ 33	△ 10.8 %
営業利益	89	147	58	65.5 %
経常利益	84	145	61	72.4 %
特別利益	—	12	12	—
四半期純利益	48	96	48	99.4 %

セグメント別売上高

金額単位：億円



【北米】

・現地通貨ベースでは増加したものの円高の影響を受け減収

【その他事業】

・ペットフードの売上減少(昨年7月から売上計上額を手数料相当部分のみとしたため)

日本セグメントの売上高

金額単位：億円

	10年度2Q	11年度2Q	前年同期比		11年度2Q(5/11公表)	
			増減額	増減率	売上予想	差額
アバプロ	37	49	12	33.0 %	55	△ 6
ロナセン	43	50	7	15.5 %	61	△ 11
プロレナール	74	78	4	4.8 %	83	△ 5
戦略品 計	154	177	22	14.5 %	199	△ 22
トレリーフ	16	25	9	56.9 %	22	3
ミリプラ	7	7	△ 1	△ 9.5 %	8	△ 1
シュアポスト	—	1	1	—	1	△ 0
メトグルコ(メルビン含)	23	36	14	61.3 %	25	11
新製品 計	46	69	23	49.5 %	56	13
アムロジン	210	182	△ 28	△ 13.3 %	163	19
ガスモチン	102	104	1	1.2 %	103	1
メロペン	66	62	△ 4	△ 6.5 %	54	8
アムビゾーム	23	22	△ 1	△ 4.5 %	24	△ 2
リプレガル	25	43	18	73.8 %	36	7
その他	276	228	△ 48	△ 17.2 %	249	△ 21
日本セグメント	902	886	△ 16	△ 1.8 %	884	2

(注) 品目別の売上高は、国内売上高をリベート控除前で記載しております。

北米・中国セグメントの売上高

金額単位：億円
(カッコ内の数字は百万ドル)

	10年度2Q		11年度2Q		前年同期比		
					増減額	増減率	
ラソーダ	—	—	(41)	34	(41)	34	—
ルネスタ	(312)	285	(261)	214	(△ 50)	△ 70	△ 24.7 %
ゾペネックス	(207)	190	(216)	177	(9)	△ 12	△ 6.4 %
ブロバナ	(49)	45	(62)	51	(13)	6	13.6 %
オムナリス	(28)	26	(34)	28	(6)	2	8.0 %
工業所有権収入	(42)	39	(42)	34	(△ 1)	△ 5	△ 11.8 %
その他	(26)	24	(28)	23	(2)	△ 1	△ 3.7 %
北米セグメント	(665)	608	(685)	562	(20)	△ 46	△ 7.6 %
メロペン		23		29		6	25.2 %
その他		4		5		1	32.3 %
中国セグメント		27		34		7	26.2 %

11年度2Q (5/11公表)		
売上予想		差額
(47)	40	△ 6
(280)	238	△ 24
(194)	165	12
(61)	52	△ 1
(38)	32	△ 4
(27)	23	11
(32)	27	△ 2
(679)	577	△ 15
	30	△ 1
	6	△ 1
	36	△ 2

北米セグメントの内訳

金額単位：億円
(カッコ内の数字は百万ドル)

< 取得原価配分の影響を除く >

	10年度2Q		11年度2Q		増減額	
売上高	(665)	608	(685)	562	(20)	△ 46
売上原価	(67)	61	(72)	59	(5)	△ 2
売上総利益	(598)	547	(613)	502	(14)	△ 44
販売費・一般管理費	(323)	295	(425)	349	(102)	54
セグメント利益	(276)	252	(188)	154	(△ 88)	△ 98

増減内訳	
為替差	その他
△60	14
△ 7	5
△ 53	9
△ 40	94
△ 13	△85

< 取得原価配分の影響 >

	10年度2Q		11年度2Q		増減額	
売上高	—	—	—	—	—	—
売上原価	(29)	26	—	—	(△ 29)	△ 26
売上総利益	(△ 29)	△ 26	—	—	(29)	26
販売費・一般管理費	(182)	166	(174)	143	(△ 7)	△ 23
セグメント利益	(△ 210)	△ 192	(△ 174)	△143	(36)	49

増減内訳	
為替差	その他
—	—
—	△ 26
—	26
△ 16	△ 7
16	33

セグメント別経営成績

金額単位：億円

		医薬品事業					合計	その他	合計
		日本	北米※1	償却費等※2	中国	海外その他			
11 年度 2 Q 実績	売上高(外部顧客向け)	886	562	—	34	98	1,579	201	1,780
	売上原価	223	59	—	9	51	343	155	498
	売上総利益	664	502	—	24	46	1,237	45	1,283
	販売費・一般管理費	325	349	143	15	2	834	29	862
	セグメント利益	339	154	△ 143	9	45	404	16	420
	研究開発費						269	3	273
	営業利益						134	13	147
10 年度 2 Q 実績	売上高	902	608	—	27	104	1,640	245	1,886
	売上原価	237	61	26	6	48	378	200	578
	売上総利益	666	547	△ 26	21	56	1,262	45	1,307
	販売費・一般管理費	327	295	166	11	2	800	30	830
	セグメント利益	339	252	△ 192	10	54	463	15	477
	研究開発費						324	4	328
	営業利益						138	11	149
増 減	売上高	△ 16	△ 46	—	7	△ 6	△ 61	△ 44	△ 105
	セグメント利益	△ 0	△ 98	49	△ 1	△ 9	△ 59	1	△ 57
	研究開発費						△ 55	△ 0	△ 55
	営業利益						△ 4	2	△ 2

※1. 特許権の償却費等取得原価配分の影響を除く

※2. 特許権の償却費等

経常利益および当期純利益

金額単位：億円

	10年度 2Q	11年度 2Q	前年同期比	
			増減額	増減率
営業利益	149	147	△ 2	△ 1.4%
営業外損益	△ 6	△ 2	3	
金融収支(受取配当金を含む)	△ 2	△ 0	2	
寄付金	△ 9	△ 7	2	
その他	5	5	△ 0	
経常利益	144	145	1	0.7 %
特別利益	—	12	12	
固定資産売却益	—	12	12	
法人税等	57	61	4	
四半期純利益	87	96	9	10.6 %

財政状態

金額単位:億円

	2011年3月末	2011年9月末	増減額
資産の部	5,899	5,663	△ 236
流動資産	3,330	3,233	△ 97
固定資産	2,569	2,430	△ 138
負債の部	2,659	2,378	△ 281
流動負債	1,572	987	△ 585
固定負債	1,087	1,391	304
純資産の部	3,240	3,285	45

(自己資本比率)

54.9%

58.0%

【資産の部】

無形固定資産の減少…… 151億円

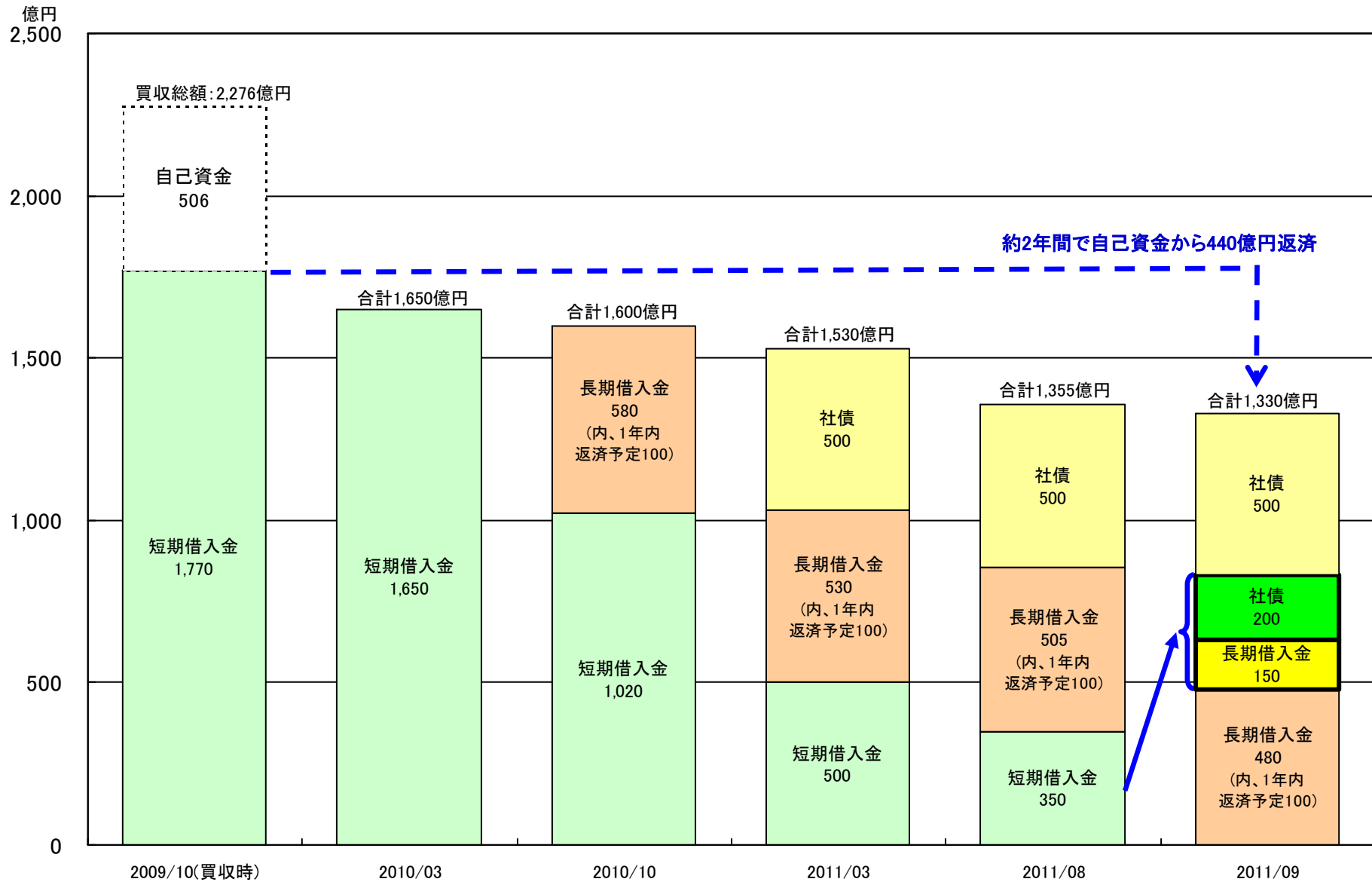
【負債の部】

有利子負債の減少 …… 206億円

【純資産の部】

利益剰余金の増加 …… 60億円

買収に伴う有利子負債の状況



キャッシュ・フロー

金額単位:億円

I 営業活動によるキャッシュ・フロー	+ 341
・ 税金等調整前四半期純利益	+ 157
・ 減価償却費	+ 204
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 63
・ 有価証券の取得による支出	△ 221
・ 有価証券の償還および売却による収入	+ 206
・ 有形固定資産取得による支出	△ 40
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 243
・ 短期借入金の純増減額(△は減少)	△ 500
・ 長期借入金の純増減額	+ 94
・ 社債の発行による収入	+ 199
・ 配当金の支払額	△ 36

現金及び現金同等物残高

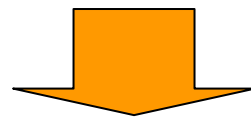
862億円

(前期末比 +33億円)

2011年度 通期業績予想

2011年度通期 業績予想の総括

- 売上高
 - ✓ 医薬品(日本)は、概ね堅調
 - ✓ 医薬品(北米)は、ドルベースではほぼ期初予想どおり。ただし、円高影響で減少
- 販売費及び一般管理費
 - ✓ 研究開発費を除く販管費は、ほぼ期初予想どおり。ただし、円高影響で減少
 - ✓ 研究開発費は、期初予想に比べて減少する見込みであることに加え、円高影響によりさらに減少
- 営業利益
 - ✓ 売上総利益の減少以上に販売費及び一般管理費が減少することにより、増益



業績予想を修正

本業績予想には、導入・提携等の際に必要な費用は織り込んでいない

2011年度修正業績予想

金額単位:億円

	2010年度	2011年度			
	通期実績	期初予想	修正予想	増減額	
		5/11発表	10/31発表	対前期	対期初予想
売上高	3,795	3,620	3,520	△ 275	△ 100
売上原価	1,100	1,038	1,000	△ 100	△ 38
売上総利益	2,695	2,582	2,520	△ 175	△ 62
販売費及び一般管理費	2,385	2,412	2,320	△ 65	△ 92
販売費・一般管理費	1,704	1,792	1,735	31	△ 57
研究開発費	682	620	585	△ 97	△ 35
営業利益	310	170	200	△ 110	30
経常利益	286	155	190	△ 96	35
当期純利益	168	85	120	△ 48	35

E B I T D A	780	595	610	△ 170	15
-------------	-----	-----	-----	-------	----

(注) 1. 記載金額は億円未満を四捨五入しております。

2. EBITDA: 税金、利息、減価償却費、特別損益控除前利益

2011年度業績予想の内訳(日本セグメント)

金額単位:億円

	期初予想 (5/11発表)			修正予想 (10/31発表)			増減額		
	上半期	下半期	通期	上半期 実績	下半期	通期	上半期	下半期	通期
売上高	884	915	1,799	886	916	1,802	2	1	3
	(24.8%)	(26.4%)	(25.7%)	(25.1%)	(27.7%)	(26.4%)			
売上原価	220	242	462	223	254	477	3	12	15
売上総利益	666	673	1,339	664	664	1,328	△ 2	△ 9	△ 11
販売費及び一般管理費	329	335	664	325	340	665	△ 4	5	1
	(38.0%)	(36.9%)	(37.5%)	(38.2%)	(35.3%)	(36.7%)			
セグメント利益	337	338	675	339	324	663	2	△ 14	△ 12

(注) 売上高には内部取引を含めておりません。

日本セグメントの品目別売上高

金額単位:億円

	2010年度	2011年度			
	実績	期初予想 5/11発表	修正予想 10/31発表	増減額	
				対前期	対期初予想
アバプロ	83	120	115	32	△5
ロナセン	90	130	110	20	△ 20
プロレナール	149	170	155	6	△ 15
戦略品 計	322	420	380	58	△40
トレリーフ	37	46	54	17	8
ミリプラ	15	17	14	△ 1	△ 3
メトグルコ(メルビン含)	47	60	82	35	22
シュアポスト	—	2	2	2	—
新製品 計	99	125	152	53	27
アムロジン	414	310	355	△ 59	45
ガスモチン	210	210	210	—	—
メロペン	126	100	110	△ 16	10
アムビゾーム	46	50	45	△ 1	△ 5
リプレガル	62	75	89	27	14
その他	550	509	461	△ 89	△ 48
合 計	1,829	1,799	1,802	△ 27	3

(注) 品目別の売上高は、国内売上高をリベート控除前で記載しております。
売上高には内部取引を含めておりません。

国内のCNS営業強化

■ CNS事業部の体制強化

2011年4月 CNS事業部発足（MR200名体制）

2011年10月 CNS-MR 230名体制に増強

事業部内に「学術推進グループ」(13名)を設置

⇒ CNS品目の学術サポート体制を強化・充実



ロナセンの早期最大化

■ ドネペジル塩酸塩の発売（2011年11月予定）

- CNS領域の製品ラインアップ強化のため、また、開発パイプラインの動向を踏まえ、後発品を取り扱う
- エスタブリッシュ・保険薬局グループ(26名)の設置

2011年度業績予想の内訳(北米セグメント)

金額単位:百万ドル

	期初予想 (5/11発表)			修正予想 (10/31発表)			増減額		
	上半期	下半期	通期	上半期 実績	下半期	通期	上半期	下半期	通期
売上高	679	680	1,359	685	663	1,348	6	△ 17	△ 11
ラソーダ	47	73	120	41	49	90	△ 6	△ 24	△ 30
ルネスタ	280	255	535	261	272	533	△ 19	17	△ 2
ゾペネックス	194	194	388	216	194	410	22	0	22
プロバナ	61	66	127	62	61	123	1	△ 5	△ 4
その他	97	92	189	104	88	192	7	△ 4	3
	(10.8%)	(12.2%)	(11.5%)	(10.6%)	(9.3%)	(9.9%)			
売上原価	73	83	156	72	62	134	△ 1	△ 21	△ 22
売上総利益	606	596	1,202	613	601	1,214	7	5	12
販売費及び一般管理費	445	408	853	425	434	859	△ 20	26	6
	(23.7%)	(27.6%)	(25.7%)	(27.4%)	(25.3%)	(26.3%)			
セグメント利益	161	188	349	188	167	355	27	△ 21	6

(注) 特許権の償却費等取得原価配分の影響を除く

2011年度業績予想の内訳(北米セグメント)

金額単位:億円

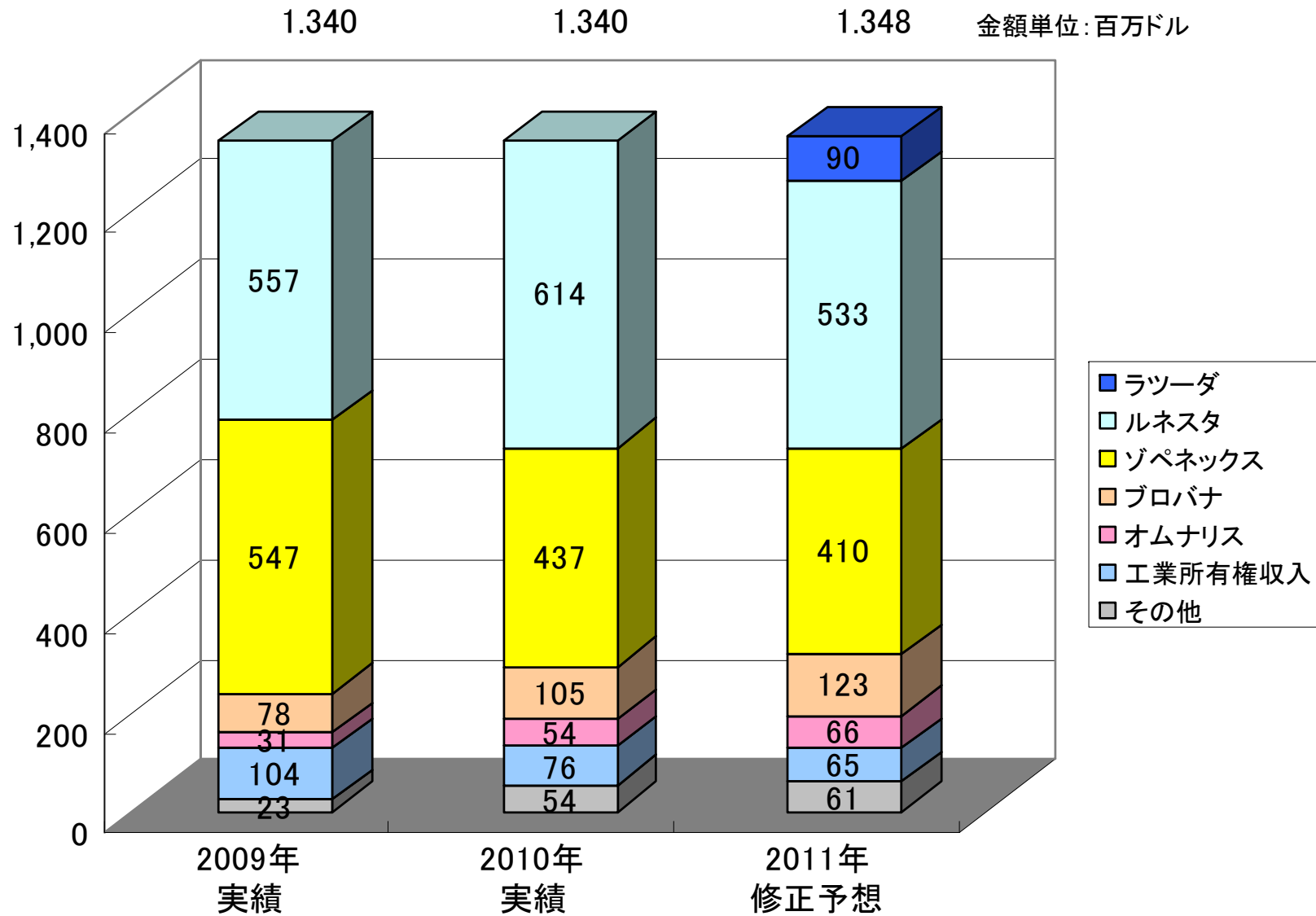
	期初予想 (5/11発表)	修正予想 (10/31発表)	増減額	為替影響	為替影響除く 増減額
売上高	1,155	1,084	△ 71	△ 61	△ 10
	(11.5%)	(9.9%)			
売上原価	133	108	△ 25	△ 5	△ 20
売上総利益	1,022	976	△ 46	△ 56	10
販売費及び一般管理費	725	691	△ 34	△ 39	5
	(25.7%)	(26.3%)			
セグメント利益	297	285	△ 12	△ 17	5

(注) 特許権の償却費等取得原価配分の影響を除く

(為替前提)

- ・ 期初想定レート: 85円/ドル
- ・ 修正想定レート: 80円/ドル

北米セグメント 品目別売上高



米国のラツータ営業強化

- 専任MRの増員
- スピーカーズ・プログラムの強化



更なるシェアオブボイスの増加

- マーケットアクセス対応に注力(特にMedicaid)

2011年度修正業績予想 セグメント別内訳(期初予想比)

金額単位:億円

	医薬品						その他	合計	
	日本	北米 *1	償却影響 *2	中国	海外 その他	合計			
修正 予想	売上高	1,805	1,084	—	66	162	3,117	403	3,520
	売上原価	477	108	—	20	83	688	312	1,000
	売上総利益	1,328	976	—	46	79	2,429	91	2,520
	販売費・一般管理費	665	691	280	36	3	1,675	60	1,735
	セグメント利益	663	285	△ 280	10	76	754	31	785
	研究開発費						577	8	585
	営業利益						177	23	200

期初 予想	売上高	1,801	1,155	—	70	181	3,207	413	3,620
	売上原価	462	133	—	16	108	719	319	1,038
	売上総利益	1,339	1,022	—	54	73	2,488	94	2,582
	販売費・一般管理費	664	725	297	42	3	1,731	61	1,792
	セグメント利益	675	297	△ 297	12	70	757	33	790
	研究開発費						611	9	620
	営業利益						146	24	170

増減 額	売上高	4	△ 71	—	△ 4	△ 19	△ 90	△ 10	△ 100
	セグメント利益	△ 12	△ 12	17	△ 2	6	△ 3	△ 2	△ 5
	研究開発費						△ 34	△ 1	△ 35
	営業利益						31	△ 1	30

*1:特許権の償却費等取得原価配分の影響を除く

*2:特許権の償却費等

臨床開発の現況

臨床開発の現況① (2011年10月31日現在)

精神神経領域

国内 海外

製品／コード名	一般名	予定適応症等	開発地域	第Ⅰ相	第Ⅱ相	第Ⅲ相	申請中
ラゾーダ (SM-13496)	ルラシドン塩酸塩	統合失調症	カナダ				
		(上限用量変更)統合失調症:1日160mg	米国				
		統合失調症	日本				
		(新効能)双極性障害うつ	米国・欧州等				
		(新効能)双極性障害メンテナンス	米国・欧州等				
	(新効能)大うつ(混合症状)	米国					
ステデサ	エスリカルバゼピン塩酸塩	てんかん(併用)	米国				
		てんかん(成人単剤)	米国				
DSP-8658	未定	アルツハイマー病	米国				
SEP-228432	未定	神経因性疼痛、うつ病	米国				
DSP-1053	未定	うつ病	米国				

ラゾーダ(SM-13496): 欧州は武田薬品との共同開発実施中(第Ⅲ相試験段階: 統合失調症、双極性障害)

がん領域

製品／コード名	一般名	予定適応症等	開発地域	第Ⅰ相	第Ⅱ相	第Ⅲ相	申請中
カルゼド(国内販売名)	アムルビシン塩酸塩	小細胞肺がん	中国				
WT4869	未定	骨髄異形成症候群	日本		※		
		固形がん	日本				

今回変更部分は赤字で示しています

※第Ⅰ/Ⅱ相の第Ⅰ相段階

臨床開発の現況② (2011年10月31日現在)

呼吸器領域

国内 海外

製品／コード名	一般名	予定適応症等	開発地域	第I相	第II相	第III相	申請中
シクレソニドHFA Nasal Aerosol	シクレソニド	(新剤形)アレルギー性鼻炎	米国				
DSP-3025	未定	気管支喘息、アレルギー性鼻炎	日本				

循環器・糖尿病領域

製品／コード名	一般名	予定適応症等	開発地域	第I相	第II相	第III相	申請中
シュアポスト	レパグリニド	(新効能) 2型糖尿病: TZD剤、BG剤併用	日本				
メトグルコ	メトホルミン塩酸塩	(小児用量追加) 2型糖尿病	日本				
AS-3201	ラニレスタット	糖尿病合併症	日本				※
DSP-8153	アムロジピンベシル酸塩 イルベサルタン	高血圧症／配合剤	日本				
DSP-8658	未定	2型糖尿病	米国				

その他の領域

製品／コード名	一般名	予定適応症等	開発地域	第I相	第II相	第III相	申請中
SMP-986	afacifenacin fumarate	過活動膀胱	日本				
			米国・欧州				
プロレナール	リマプロストアルファデクス	(新効能) 手根管症候群	日本				
DSP-1747	obeticholic acid	原発性胆汁性肝硬変(PBC)、 非アルコール性脂肪肝炎(NASH)	日本				
DSP-6952	未定	便秘型IBS、慢性便秘	日本				
DSP-5990	セフトロリン・フォサミル	MRSA感染症	日本		※		

今回変更部分は赤字で示しています

※は準備中

LATUDA®(ルラシドン) 開発進捗状況①

米国(統合失調症)

- 上限用量追加(1日160mg)申請中(2011年6月申請)

- 継続中の主な試験
 - PEARL 3継続投与試験: プラセボ及び実薬(クエチアピンXR)対照第Ⅲ相試験の継続投与試験(1年)のデータを発表(2011年10月)
 - スイッチ試験: 2010年3Q開始。終了、データ解析中
 - メンテナンス試験: 2011年3Q開始、実施中

- 計画中の試験
 - 20mg/日の低用量試験: 2012年2Q開始予定
 - 小児(10-17歳)対象のPK試験: 2011年4Q開始予定
 - 小児(13-17歳)対象の有効性試験: 2012年2Q開始予定

LATUDA®(ルラシドン) 開発進捗状況②

米国（双極性障害 他）

■ 双極性障害（うつ）第Ⅲ相試験（PREVAIL試験）

- PREVAIL#1: プラセボ対照試験- 併用療法（リチウム/バルプロ酸に追加投与）2009年4月開始
- PREVAIL#2: プラセボ対照試験- 単剤療法 2009年4月開始
- PREVAIL#3: プラセボ対照試験- 併用療法（リチウム/バルプロ酸に追加投与）2010年12月開始

2012年、適応追加申請予定

■ 双極性障害メンテナンス

- 2011年2Qに第Ⅲ相試験を開始

■ 大うつ（混合症状）

- 2011年2Qに第Ⅲ相試験を開始

■ 計画中の試験

- IMデポ剤

LATUDA®(ルラシドン) 開発進捗状況③

米国以外

- 日本： 統合失調症/新規第Ⅲ相試験を準備中
- カナダ： 統合失調症/申請(2011年6月)
- 中国： 統合失調症/IND(治験届け)提出(2011年9月)
- 欧州： 統合失調症・双極性障害/武田薬品と共同開発実施中(第Ⅲ相試験段階)
英国は自社展開を検討

LATUDA®(ルラシドン) PEARL 3 継続投与試験結果①

- クエチアピン XR対照二重盲検比較
- 対象:成人統合失調症患者
- 投与期間:12ヶ月
- 主要評価項目:精神症状再発までの時間
- 用量
 - ルラシドン:PEARL 3試験の80mg/日または160mg/日投与群、およびプラセボ投与群*
 - ⇒最初の1週間は、120mg/日(固定用量)
 - ⇒52週まで、40mg/日~160mg/日
 - クエチアピン XR:PEARL3試験の600mg/日投与群
 - ⇒最初の1週間は、600mg/日
 - ⇒52週まで、200mg/日~800mg/日

*:主要解析時はPEARL3試験プラセボ投与群は除く

LATUDA®(ルラシドン) PEARL 3 継続投与試験結果②

ルラシドンは、クエチアピン XRに対し再発リスクを27%減少*させ、再発リスクにおいて非劣性が検証された。また、体重増加やメタボリック指標の変化が少ないという結果も得られた。

* ハザード比=0.728

その他の主な結果

再発確率(Kaplan-Meier分析)*1:	ルラシドン群23.7%	クエチアピン XR群33.6%
治療不成功による中止率*1:	ルラシドン群16%	クエチアピン XR群26%
PANSS総合点*2:	ルラシドン群-34.6	クエチアピン XR群-25.7(p=0.006)
体重*2:	ルラシドン群+0.7kg(1.5lbs)	クエチアピン XR群+1.2kg(2.6lbs)
コレステロール*3:	ルラシドン群0.0mg/dL	クエチアピン XR群+4.0mg/dL
トリグリセリド*3:	ルラシドン群-18.0mg/dL	クエチアピン XR群-7.0mg/dL
グルコース*3:	両群とも+1.0mg/dL	

*1 継続投与期間中の結果 *2 PEARL3試験開始時からの平均変化量 *3 PEARL3試験開始時からの変化量の中央値

副作用(発現率が5%以上のもの)

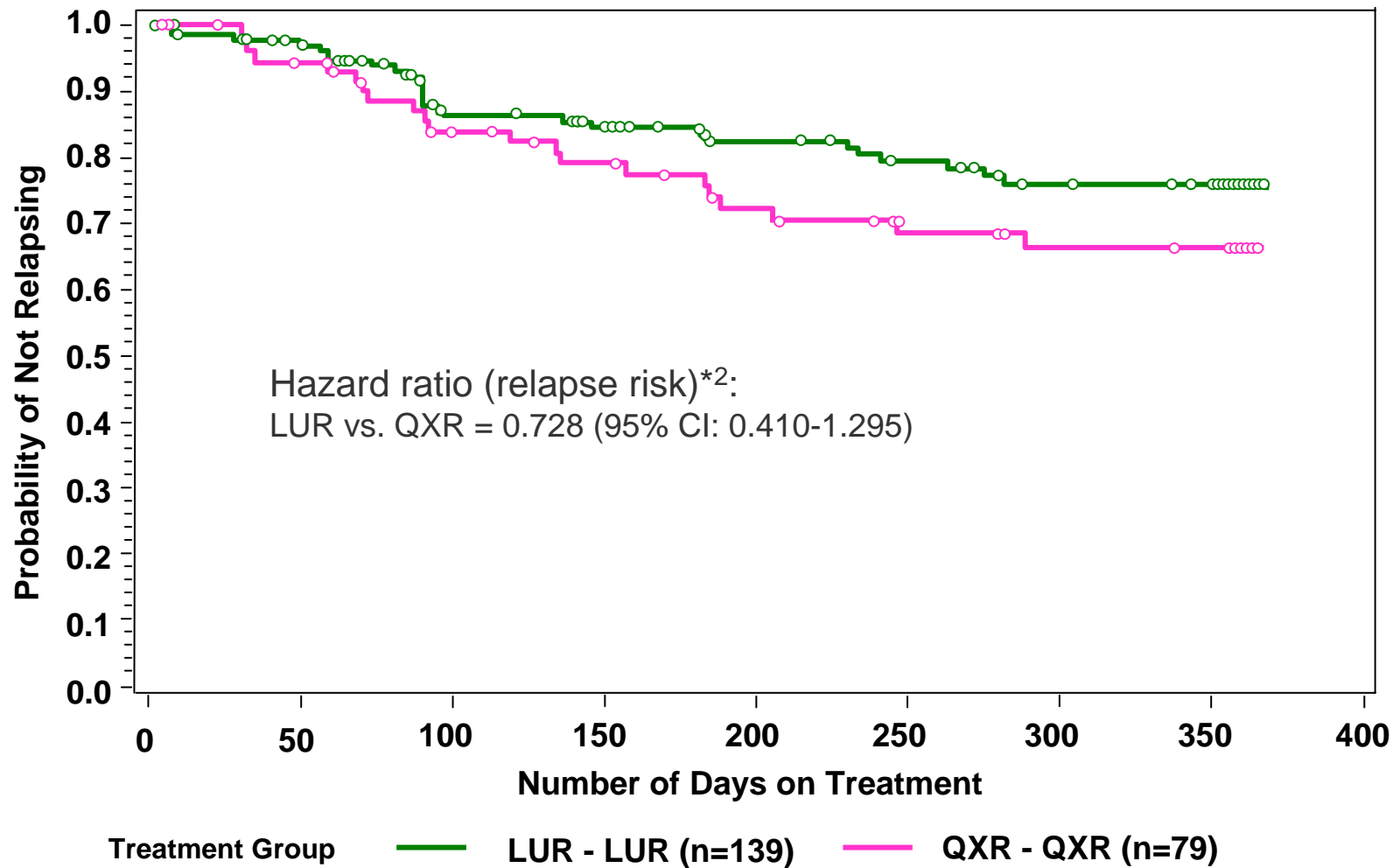
ルラシドン投与群: アカシジア、頭痛、不眠、不安、体重増加、パーキンソン様症状

クエチアピン XR投与群: 統合失調症、頭痛、不眠、精神障害、体重増加、興奮

試験結果の詳細は今後開催される学会にて発表予定

LATUDA® (ルラシドン) PEARL 3 継続投与試験結果③

Kaplan-Meier Survival Analysis*1



*1 Kaplan-Meier Survival Curve up to 365 Days

*2 Derived from the Cox Proportional Hazards Model

オンコロジー（がん領域）への取組み①

オンコロジーへの注力理由

- 人類共通の難病の克服に挑戦することは創薬型製薬企業の使命である
- アンメット・メディカル・ニーズが極めて高い
- 世界的にマーケットが急拡大している
- サイエンスの進歩が急速で新たなブレイクスルーが期待できる
- 専門医中心の領域であり、少数の専門的MRで対応できる
- 当社の国内営業部門、研究開発部門に事業基盤がある

オンコロジー(がん領域)への取組み②

活動状況

マーケティング

[日本]

- ・スミフェロン(1987年発売、販売中)
- ・カルセド(2002年発売、日本化薬に販売移管)
- ・ミリプラ(2010年発売、販売中)

開発

[日本]

- ・WT4869(MDS:Ph1/2、固形がん:Ph1開発中)

[中国]

- ・カルセド(Ph3開発中)
- ・ミリプラ(本年治験届けを提出予定)

オンコロジー 事業推進室

研究

- ・チャレンジ領域として、オンコロジーを含むスペシャリティ領域に注力
- ・抗がん剤へは、低分子に加え、タンパク、ペプチド、抗体、核酸といったバイオ医薬からのアプローチも進行中

提携・導入

- ・京都大学との協働研究(DSKプロジェクト)を推進中
- ・米国BBI社*から、がん幹細胞を標的とする化合物「BBI608」導入のオプション契約締結
(日本:オプション権、北米:独占交渉権)

*ボストン バイオメディカル社

震災復興支援－これまでの主な取り組み

■ 震災復興支援室の設置

- 2011年5月1日に設置（設置期間1年間）
震災復興支援活動の調査、企画、実施を担う専任組織

■ 薬剤師ボランティア

- 約200名が応募→3名1組で宮城県にて活動（24団72名） ※8月2日で終了
- 宮城県薬剤師会の復興支援活動を最大限にサポート
（OTCの仕分け、物資の運搬、一般薬剤師ボランティアの活動調整補助、業務全般補佐 など）

■ 一般ボランティア

- 約150名が応募→ボランティアバスにて
岩手県陸前高田市に赴き活動（現在までに6団99名）
- 道路側溝の泥出し、がれきの撤去、施設清掃 など

■ その他

- 福島県学校運動会の支援
- 福島県災害ボランティアセンターへの派遣
- 東北大学との「ドリームケアチーム」 など

震災復興支援－今後の取り組み予定

■ 一般ボランティア

- 岩手県ボランティアバス
- 宮城県ボランティアバス など

■ 除染ボランティア

- 活動期間:2011年11月～2012年3月
- 活動場所:福島市内
- 活動内容:個人宅の庭の表土剥ぎ など(放射線を扱った経験のある社員が活動)

■ すこやかプロジェクト

- 活動期間:2011年11月～2012年3月
- 活動場所:宮城県気仙沼市・大島
- 仮設住宅住民の孤独死防止につながる見守り活動
子供達に薬の正しい利用法を教える⇒子どもたちは仮設住宅のお年寄りに伝える

■ マルシェ

- 被災地の物産を購入することによる支援

被災地のニーズに合わせた復興支援を今後も展開予定

将来予測に関する注意事項

この資料に含まれる将来の予測に関する事項は、発表日現在において入手可能な情報による当社の仮定および判断に基づくものであり、既知または未知のリスクおよび不確実性が内在しております。

したがって、実際の業績、開発見通し等は今後さまざまな要因によって大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき願います。

医薬品（開発中のものを含む）に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。